

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 北海道札幌市中央区北 3 条西 7 丁目
管理機関名 北海道教育委員会
代表者名 中島 俊明

令和 6 年度マイスター・ハイスクール普及促進事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1. 基本情報

管理機関	(管理機関名) 北海道教育委員会
	(代表者職名) 教育長
	(代表者氏名) 中島 俊明
事業名	北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト
事業実施期間	契約日～ 令和 7 年（2025 年） 年 3 月 31 日
モデル	先進的取組 / 連携体制強化
連携体制を構築する 産業分野	6 次産業（農業、商業、水産）、半導体関連（工業）、 洋上風力発電（工業、水産）、観光 DX（商業）、 スマート農業（農業）、スマート水産業（水産） など
拠 点 校 名 ※学校名の末尾にかっ こ書きで、実施対象の 学科を記載 〇〇高等学校（農業 科）等	北海道静内農業高等学校（農業科） (計 1 校)
連 携 予 定 の 産 業 界 等 名 (団体名・企業名等)	・北海道経済連合会 ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター ・一般社団法人北海道農産協会 ・北海道産業教育審議会

2. 事業概要等

(1) 産業界と専門高校の連携体制に関する申請者の課題

- ◆ マイスター・ハイスクール事業（以下「本事業」という。）の指定校2校（北海道静内農業高等学校（以下「静内農業高校」という。）、北海道厚岸翔洋高等学校（以下「厚岸翔洋高校」という。））では、次のような成果があった。
 - ① 生徒の地域産業への理解が深まり、地域のために貢献したいと考え行動できた生徒や、地域の産業に就職しようと考えた生徒の割合が増加。
 - ② 馬産業やスマート水産業の分野で活躍する最先端の専門的知識や技術を有する職業人と連携するなど、これまで以上に人的ネットワークが広がり、高度化する専門的な知識や技術に対応した学びの提供を通じて、最先端の職業教育が充実。
- ◆ 一方で、道内の専門高校と産業界の連携については、次のような課題があった。
 - ① 連携した取組が少ない
 - ② 連携の進め方や配慮点が不明
 - ③ ニーズや価値観が異なり連携が進みづらい
 - ④ 教員が多忙なため企業等との調整が不足
- ◆ こうしたことから、次のような取組が必要である。
 - ① 静内農業高校と厚岸翔洋高校が本事業に取り組んできた成果を北海道の強みとして生かし、両校それぞれの取組やノウハウを道内の専門高校に横展開
 - ② 産業界と専門高校のサステナブルな連携体制の仕組みづくりの検討・実現

(2) 事業概要

- ◆ 本事業では、指定校にマイスター・ハイスクール CEO が配置されたことで、高度熟練技能者による指導、企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的かつ体験的な学習活動が充実した。こうした連携体制による教育実践を踏まえ、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置することにより、都市部に所在する企業をはじめ、各地域の産業界等と専門高校を人的につなげることで、実践的な職業教育の充実を図る。
- ◆ 企業を対象とした専門高校との連携に関する意向調査を実施し、謝金等が不要で出前授業が可能な職業人をデータベース化した「産業実務家教員リスト」を作成し、専門高校で共有する。本リストは、専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースにしており、学校の実態や学科の特徴に応じた人的資源の活用を促進する。
- ◆ 産業構造の変化に対応した教科指導や進路指導の充実を図るため、半導体関連産業や洋上風力発電、スマート農業・水産業や建設 DX などの職業理解に資する「おしごとガイドブック」を制作し、全道の中学1、2年生と高校1、2年生、経済団体等に配付する。
- ◆ 専門高校の教員や企業、生徒を参加対象とした「産学連携シンポジウム」などのイベントを開催し、他校・他学科で実施している産業界等との連携・協働の取組を共有することにより、道内の各専門高校における職業人材育成システムの構築を促進する。
- ◆ 上記(1)で示した課題の解決に向けて、産学連携コーディネーターを高校教育課に配置し、職業学科担当の指導主事と連携しながら、道内の専門高校を支援する「北の専門高校プラットフォーム」の創設を目指す。産学連携コーディネーターの主な役割は、本プラットフォームの柱である次の3点とする。
 - ① 人的ネットワークの構築

- ② 「産業実務家教員リスト」の作成と活用促進
- ③ 新たな産業や専門高校への理解促進

(3) 事業目的

- ◆本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が変化しているため、産学連携コーディネーターが、産業界と専門高校を人的につなげ、先進的な取組を直接学べる連携体制を強化する。
- ◆地域産業における人材育成の核となる専門高校の役割として職業人を育成するため、全道の専門高校における産業界等と連携した実践的な職業教育を推進する。
- ◆研究1年目は、静内農業高校や厚岸翔洋高校が、マイスター・ハイスクール事業で取り組んできた地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の専門高校に広く発信する。
- ◆研究2年目は、静内農業高校や厚岸翔洋高校が研究1年目に発信したノウハウを、道内の4圏域に設定した拠点校を中心として実践し、その成果をさらに道内の専門高校に普及することで、全ての専門高校における産業界との連携を充実させる。

(4) 事業実施体制

- ◆管理機関となる北海道教育委員会は、経済団体、自治体、教育機関等の有識者で構成し、産学連携に係る課題解決に向けた協議を行う事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置し、静内農業高校（食品科学科、生産科学科）や厚岸翔洋高校（海洋資源科）が構築した職業人材育成システムを全道の専門高校に横展開するため、指定校2校の取組を参考にした拠点校の実践事例を専門高校へ発信する仕組みを構築する。
- ◆産学連携コーディネーターは、専門高校における出前授業や長期間のインターンシップ、企業見学等の取組の充実を図るため、管理機関と連携しながら、地域の企業等に協力を要請し、各産業に従事する職業人をデータベース化した「産業実務家教員リスト」を作成して、各専門高校における効果的な活用を促進する。

●管理機関の役割について

- ◆「ONE-TEAM コミッティ」を設置・運営することで、産業界と専門高校との連携・協働に係る課題を整理し、解決に向けた方策を立てるほか、専門高校におけるコンソーシアムの構築に向けた支援、教員研修やイベントの企画提案、事業の円滑な実施に向けて評価・改善等を行う役割を担うことで、専門高校における職業人材育成システムの構築を支援する。
- ◆産学連携コーディネーターを配置し、職業に関する教科を担当する指導主事とともに学校を支援する。

(5) 事業の進捗管理、成果の検証、改善等の仕組み

- ◆事業の進捗及び目標達成の状況は「ONE-TEAM コミッティ」で行い、評価・改善の方向性等について協議する。
- ◆検証は年度末に行い、PDCA サイクルを機能的かつ効果的に実行する。
- ◆事業内容は、北海道教育委員会のウェブページや教員を対象とした各種研究会等において普及・啓発するほか、産業教育関係者に向けた通信「ONE-TEAM ニュース」を発行するなど、学校関係者や産業界関係者に広く周知するとともに、意見等を募集して本事業の改善に資する。

●達成目標及び指標①

- ◆ 達成目標
コンソーシアムを構築することや、産業実務家教員による指導等を教育課程に位置付けることなど、産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合
- ◆ 指標（道立専門高校全て）
R 5 → 6%（4校÷56校≒7%）※現状値
R 6 → 12%（8校÷56校≒14%）※目標値（令和7年5月集計予定）
R 7 → 50%（28校÷56校=50%）※目標値（令和8年5月集計予定）

●達成目標及び指標②

- ◆ 達成目標
産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合
- ◆ 指標（道立専門高校のうち農業科・工業科・商業科・水産科）
R 5 → 54%（29校÷54校≒54%）※現状値
R 6 → 61%（33校÷54校≒67%）※目標値（令和7年5月集計予定）
R 7 → 91%（49校÷54校≒93%）※目標値（令和8年5月集計予定）

（6）成果発信の取組

- ▶ 道教委ウェブページにおける情報発信
- ▶ 道内の専門高校を卒業して産業界で活躍している先端技術者を紹介した「おしごとガイドブック」の制作（道内の中学1、2年生及び高校1、2年生、経済団体等に配付）
- ▶ 各種教員向け研修会（建設DX、半導体、観光産業、洋上風力発電）
- ▶ 「産学連携シンポジウム」の開催（生徒、産業界関係者、教員等対象）
- ▶ 各職業学科の教員を対象とした研究会等における情報提供
- ▶ 北海道産業教育審議会への情報提供
- ▶ 「産学連携カンファレンス」の開催（生徒、産業界関係者、教員等対象）
- ▶ 「職業学科理解推進ガイド」の発行
- ▶ 「職業学科理解促進セミナー」の開催（中学校教員対象）
- ▶ 産業教育関係者に向けた通信「ONE-TEAM ニュース」の発行

3. 令和6年度実績

（1）事業運営委員会の構成

氏名	所属・職	役割
月館 海斗	株式会社すみか・代表取締役	産学連携コーディネーター
岡部 善平	小樽商科大学・教授	
百瀬 康弘	北海道経済連合会・常務理事	
和田 順子	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター・事業戦略統括部コーディネーター	
山上 朝香	北海道農政部生産振興局技術普及課・首席普及指導員	

矢野 伸一	北海道経済部産業振興局産業振興課スタートアップ推進室・参事	
桑名 真人	一般社団法人北海道農産協会・てん菜部長	
赤穂 悦生	北海道静内農業高等学校・校長	令和6年度拠点校
事業運営委員会が本事業において果たす役割 ▶ 持続可能な産学連携の推進や、生徒が新たな産業や先端技術を活用した働き方について理解を深めることを目的に必要な援助を行う。 ▶ 職業人をデータベース化する「産業実務家教員リスト」の作成に当たって助言する。 ▶ 教員向け研修や産学連携に資するイベント等の計画や運営に当たって助言・援助をする。 ▶ 本事業の評価・改善を行う。		

(2) 事業運営委員会における実績

▶ 専門高校等の課題を把握し、学校と企業とのコーディネート の在り方を検討
▶ 専門高校と地域（企業、自治体等）におけるコンソーシアムの構築を推進
▶ 専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方を検討
▶ デジタル人材、グリーン人材を育成する教育体制の在り方を検討

(3) 事業項目別実績

事業項目	実施期間（令和6年6月～令和7年3月）									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ONE-TEAM コミッティ （事業運営委員会）	○				○				○	
キックオフミーティング		○								
学校ヒアリング調査		○								
企業ヒアリング調査					○					
教員向け研修（建設DX、半導体、観光産業、洋上風力発電）				建設DX				半導体	観光産業、 洋上風力 発電	
産学連携シンポジウム						○				
職業学科理解推進ガイド					○					
職業学科理解促進セミナー					○					
4Sサミット								○		
産業実務家教員リスト										○
おしごとガイドブック										○
産学連携カンファレンス									○	
ONE-TEAM ニュース			第1号		第2号		第3号	第4号	第5号	第6号
どさんこプラザでの販売会							○			

<詳細>

◆ ONE-TEAM コミッティ（事業運営委員会）

[6月]

- ▶ 事業計画の具体的な検討等
- ▶ 拠点校（静内農業高校）からの情報発信
- ▶ 実習等の視察（静内農業高校）

[10月]

- ▶ 事業1年目の中間報告、各種イベント等の検討
- ▶ 実習等の視察（札幌工業高校）

[2月]

- ▶ 産学連携カンファレンスの検討等
- ▶ 今年度の取組の評価、次年度の計画の検討



第1回は静内農業高校で開催

◆ キックオフミーティング

専門高校の代表教員が参集し、静内農業高校による事例発表や管理機関による事業概要の説明に加え、元マイスター・ハイスクールCEOによる講演等を実施した。

拠点校が3年間で構築した自走可能な職業人材育成システムについて、専門高校の教員がその有用性を深く認識し、自校での導入の在り方について検討した。



産学連携コーディネーターのファシリテートによる協議

◆ ONE-TEAM ニュース

本プロジェクトの取組や専門高校における産学連携の好事例、各種イベント等の情報を掲載し、専門高校や産業界に広く発信した。（年6回発行）

産業界関係者からは「専門高校の取組を知ることができるので発行が楽しみ」との声が多数あった。

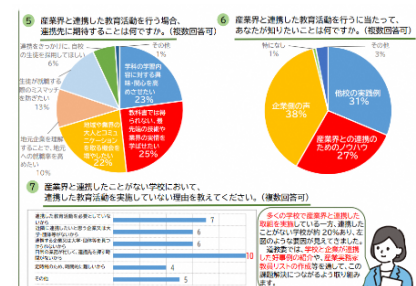


ONE-TEAM ニュース（第3号）

◆ 学校ヒアリング調査

本プロジェクトを専門高校にとって有益な取組とするため、専門高校を対象に、産学連携についての現状や考え方などを把握するヒアリング調査を実施した。（回答数 159）

調査結果を「ONE-TEAM ニュース（第2号）」に掲載し、学校と産業界で共有することで、両者が産学連携の成果や課題等を把握できた。



学校ヒアリング調査の結果

◆ 企業ヒアリング調査

北海道産業教育審議会と連携し、専門高校や経済団体等を通じて、産学連携に関する調査を実施した。企業実習やインターンシップの受入れ状況のほか、企業側の産学連携における成果や課題等を把握できた。内容及び分析結果については、令和7年11月に北海道産業教育審議会から建議として発表する予定である。

◆ 教員向け研修（建設DX、半導体、観光産業、洋上風力発電）

産業構造の変化や技術革新に対応した教員の指導力向上を図るため、関係機関等と連携し、教員向けセミナーを開催した。



教員向け建設DX理解促進セミナー
令和6年（2024年）9月26日（木）14:00～15:30 ※Zoomによるオンライン

◆ 講 義（14:00～14:30）
・ 講 題：『建設DXの推進がもたらす産業構造の変化と人材育成』
・ 講 師：建設DX推進委員会 事務局 佐々木 隆雄 氏

◆ 講 義（14:30～14:45）
・ 内 容：『建設DXの推進がもたらす産業構造の変化と人材育成』について

◆ 講 義（14:45～15:00）
・ 講 題：『建設DXの推進がもたらす産業構造の変化と人材育成』について

◆ 講 義（15:00～15:15）
・ 内 容：『建設DXの推進がもたらす産業構造の変化と人材育成』について

◆ 講 義（15:15～15:30）
・ 内 容：『建設DXの推進がもたらす産業構造の変化と人材育成』について

建設DX



洋上風力発電



観光産業

◆ 産学連携シンポジウム

産業界関係者や専門高校の教員合わせて137名が参集し、静内農業高校による事例発表のほか、産学連携コーディネーターの進行によるパネルディスカッション（生徒3名、企業・経済団体関係者4名）を通して、持続可能な産学連携の在り方等を共有した。



パネルディスカッションの様子

◆ 職業学科理解推進ガイド

中学生やその保護者、中学校教員等の専門高校への理解を深めることを目的に、職業学科の学習内容や進路先等を小学科などのカテゴリー別に紹介するガイドブックを制作し、全道の中学校に配付するとともに、道教委のウェブページに掲載し、経済団体等に周知した。



表紙



工業科のページ



寄宿舎や専攻科の情報も掲載

◆ 4 Sサミット

産業教育に携わる4つのS（専門高校、産業界、産学連携コーディネーター、指導主事）の代表者が集合し、産学連携に資する講演や意見交換等を通じて、それぞれの取組状況や課題等を把握し、持続可能な産学連携の実現に向けて目線合わせを行った。



4 Sサミットの様子

◆ 産業実務家教員リスト

専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースに、謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をまとめた「産業実務家教員リスト」を作成して各専門高校に配付し、専門高校における持続可能な人的・物的資源の活用を促進した。



産業実務家教員募集（チラシ）

◆ おしごとガイドブック

専門高校が取り組んでいる「縦」と「横」のつながりにスポットを当てたガイドブックを制作し、道内の中学校1、2年生（約76,500名）及び高校1、2年生（約46,000名）に配付した。

[主な内容]

- ▶ 産学連携コーディネーターから中高生へのメッセージ
- ▶ 先端技術を活用した産業分野で活躍する専門高校卒業生の仕事内容ややりがい

<掲載分野>

スマート農業、スマート水産業、半導体関連産業、観光産業、洋上風力発電、建設DX、医療、福祉、ファッション



専門高校を卒業した技術者9名の仕事内容ややりがいを紹介

- ▶ 専門高校と地域の企業が連携した取組
- ▶ 学科の垣根を越えた専門高校同士が連携した取組
- ▶ 中学校の技術科と連携した専門高校の取組
- ▶ （中学生版のみ）産学連携コーディネーターと専門高校生3名の対談
- ▶ （高校生版のみ）北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

◆ 産学連携カンファレンス

専門高校の教員 85 名、生徒 20 名、産業界関係者 68 名が全道から参集し、厚岸翔洋高校によるマイスター・ハイスクール事業の事例発表のほか、生徒を交えたグループ協議等を通して、持続可能な産学連携の在り方を共有するとともに、その実現に向けて協働体制を構築した。



生徒、教員、産業界関係者による協議

<達成目標>

- ▶ 産業界等と連携・協働体制を整えるための協議を各専門高校で行う。
- ▶ 学校や企業を対象としたヒアリング調査の結果を踏まえて、研修や産学連携カンファレンスなどの機会を通じて、専門高校と産業界との連携における進め方や好事例を共有する。
- ▶ DX や 6 次産業化等の産業構造、仕事の変化に対応した教員の指導力向上を図る。
- ▶ 産学連携における課題等を発見し、事業運営委員会等で整理・分析した上で、産学連携コーディネーターが必要に応じて、各専門高校に援助を行う。
- ▶ 先端技術を活用した新たな働き方について、ガイドブックやデータベースを作成・普及することで、専門高校で学ぶ生徒の職業理解を図るとともに、企業等の協力を得た長期の実習やインターンシップが実現できる体制を構築する。

<目標達成状況>

- ▶ 教員と産業界関係者が、持続可能な産学連携について考える機会を数多く設定できた。
- ▶ 新たな産業や働き方を理解する教員研修を 4 つのテーマで実施することができた。
- ▶ 幅広い広報活動により、専門高校の取組や産業連携に資する情報を広く発信できた。
- ▶ 中学校に向けて、専門高校の価値や魅力を発信することができた。

<成果及び次年度以降の課題>

〔成果〕 静内農業高校の産学連携のノウハウを道内の専門高校に普及・啓発できた。

〔課題〕 専門高校が分散している広域な北海道において、各地域の持続可能な産学連携を推進する体制の整備

(4) 管理機関における取組実績

◆ 「ONE-TEAM ニュース」の発行

産学連携コーディネーターや拠点校の取組、先進的な連携事例など、本事業に関する情報をまとめた通信を作成し、専門高校や産業界に配付した。(年 6 回発行)

◆ 「職業学科理解推進ガイド」の発行

中学生やその保護者、中学校教員の専門高校に関する理解を深めるため、ガイドブックを制作し、全道の中学校に配付するとともに、道教委のウェブページに掲載し、経済団体等に周知した。

◆ 「職業学科理解促進セミナー」の開催

中学校の教員を対象に、上記のガイドブックを使用して、職業学科の学習内容や進路先を学びのカテゴリーごとに説明するセミナーを開催した。

◆ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ

道内の農業高校や商業高校、水産高校等が企業と連携して開発した商品を、北海道のアンテナショップで販売することなどを通じて、専門高校の生徒同士が交流を深めるとともに、6次産業化を体験した。



販売当日の様子

4. 現時点の状況

拠点校における以下の数値について記入すること（拠点校ごとに記載）

拠点校名	北海道静内農業高等学校
① コンソーシアム（産業界、自治体など複数で構成される人材育成を目的に含む団体）の数	1（構成団体 15）
② 産学連携コーディネーターの数	0
③ 人材育成に関わっている企業等の数	32
④ 人材育成に関わっている企業等人材の人数	64
⑤ 企業等の人材が行う授業の数	一人で担当：10 一部を担当：17 教員と T.T：5
⑥ インターンシップ	企業数：50 平均期間：10 日間（デュアルシステムを含む） 参加生徒数：84